

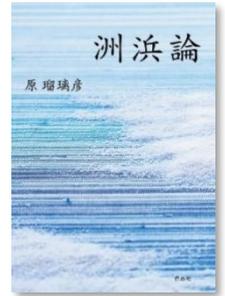
## □ 内容紹介

「洲浜」とは、洲が曲線を描きながら出入りする海辺をさす。現代では、伝統和菓子「すはま」や、日本庭園における手法、絵画や工芸、風流作り物など、幅広い分野で洲浜のモチーフを見出すことができる。さらには、天皇が重要な儀式で着用する衣服、黄櫨染御袍（こうろぜんのごほう）にも用いられている。「洲浜」という語の初出は、平安時代の「民部卿行平歌合」（885-87）の記録である。歌合では、洲浜台という洲浜の形をかたどった台が中心に据えられた。台の上に和歌の表象のミニチュアが置かれた箱庭のようなもので、洲浜台は和歌のための「小さな舞台」としての役割を果たしていたと考えられる。本書では、第一部で洲浜台が用いられていた歌合の記録を丁寧に調査、「洲浜」という海辺の表象の意義について考察する。第二部では、洲浜台が歴史の表舞台から影をひそめていった11世紀末以降の、洲浜台に類似した作り物、絵画や工芸、庭園、和菓子、服飾などに見出せるモチーフとしての洲浜を論じている。洲浜のモチーフは、幅広い分野で見出すことができるが、中心的なものでなく、あくまで部分的に見出せるのみであり、「文化の無意識」とでも言うべきレベルで、ひそかに息づいているようであるとしている。洲浜という、まさにニツちな視点から日本文化史をとらえる一冊。

## □ 関連書籍

『日本美術のこぼれ案内』  
小学館 2003.1

## 洲浜論



原 瑠璃彦／著 作品社 2023.6  
463p 20cm  
702.1/ネ 36 2023.9.8 受入  
定価 3,600 円＋税

## 目次

- 序  
第一部 平安時代における洲浜の成立とその意義  
第一章 和歌のためのミニチュアの器  
第二章 天皇に捧げられる小さな舞台  
第三章 洲浜に込められた古代の記憶  
補論一 八十嶋祭と『源氏物語』に描かれた洲浜  
第二部 中近世における洲浜の展開  
第四章 藤原頼通と洲浜  
第五章 日本文化に息づく洲浜  
補論二 洲浜の音  
結び  
参考文献・URL 一覧／図版出典一覧／あとがき／索引

## 図書館員のつぶやき

表紙はデザイナーで「スハマー（洲浜を愛する人）」でもある堀畑裕之氏によるもの。おしゃれです。スハマー増殖の予感がします。



## 三越 350 年 営業革新と挑戦の歴史

宮副 謙司／編著 同友館 2023.8  
300p 21cm  
673.838/ネ 38 2023.8.22 受入  
定価 3,500 円＋税

【群馬県関係記事】  
p.97-98、p.110-111  
「前三百貨店」に関する記述あり

## □ 内容紹介

創業から 350 年という長い歴史を持つ「三越」。本書では、三越 1 社を研究対象としている。三越が、時代の市場環境変化に適時対応し、行ってきた様々な取り組み、変革、挑戦に着眼。営業面を中心にケース研究し、アカデミックな観点から的確に分析する。前橋市にあった前三百貨店は、「三越」を名乗れなかった地方百貨店の事例として挙げられている。定休日や包装紙を三越と一体にするなど三越との同化を図ったが、「前橋三越」と改称するにふさわしい業況回復に至らなかったという。「三越」という一大ブランドの歴史が垣間見える一冊。

## 図書館員のつぶやき

群馬で最初の百貨店「前三」。思い出の場所だった方も多いのでは😊

## 〈前三百貨店 豆知識〉

- ◇ 1964（昭和 39）年 9 月 18 日、前橋テルサ（前橋市千代田町）の場所に開店した、群馬県で最初の百貨店。
- ◇ 前橋商工会議所が中心となって設立。
- ◇ 当時デパートのなかった県は群馬と滋賀と奈良の 3 県。
- ◇ 前橋商工会議所会頭伊藤正直氏は、三越の常務松田伊三雄氏と同じ香川県の出身で、三豊中学、慶応の同窓。それが縁で、三越が経営に協力したという。
- ◇ 当初は「丸三（まるみつ）百貨店」の名称で設立。（仙台などに「丸光（まるみつ）百貨店」があり開店時に改称。）
- ◇ 第 1 回入社試験は、採用予定人数女子 200 名、男子 50 名に対し、750 名の応募があったとのこと。
- ◇ 1985（昭和 60）年 12 月 30 日に閉店。

## □ 参考文献

『前三百貨店誕生の記』（禁帯出資料）  
【大図軍之丞】 1971

『前橋商工月報』第 120 号（禁帯出資料）  
【前橋商工会議所／編】 1964.9

『夢 出会い 前橋 県都を支えて』写真集編  
前橋商工会議所 1998.3



本紙は、県立図書館が新たに収録した資料をご紹介します。県立図書館は、小説や実用書などの一般的な資料よりも、専門的な資料や通常の出版物ルートに乗らない郷土資料など、特定の利用者層や限定的なニーズを満たすような資料を収集する役割を担っています。「ニツち」＝「すき間」というタイトルにその意図を込めてみました。  
【群馬県立図書館】 〒371-0017 前橋市日吉町一丁目 9-1 電話：027-231-3008

